



# 太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより  
令和4年7月号(第4号)  
令和4年7月1日発行

## 【学校教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心をもち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

喜んで登校 満足して下校

## 【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

## なすことによって学ぶ

校長 三島 公夫

5月16日(月)に6年生が、国税庁浦和税務署とさいたま市選挙管理委員会によるコラボ出前講座を受講しました。講座の内容は、税理士と税務署職員による「租税教室」、選管職員による「模擬投票」です。

子どもたちはまず、消費税や所得税などの税に関する講義を受け、続けて選管が用意した3人の候補者が税金の使い道について演説する映像を視聴しました。その後、実際に使われる記載台で実際の投票用紙に候補者名を記入し、本当の投票箱に1票を投じました。

この度、税務署と選管から、講座後に実施した子どもたちへのアンケート結果と感想が送付されましたので、一部を紹介します。

- ・自分たちの生活に、ちゃんと税金が関わっていることがわかりました。
- ・選挙のやり方がわかったので、18歳になったら安心して選挙に行けそうです。
- ・選挙をやったときに(自分が)投票した人が1位になればいいなというドキドキ感があっておもしろかったです!! いい勉強になりました。
- ・自分の1票が政治を動かすことにつながるの、すごいことだと思いました。
- ・私たち小学生がこれからの未来のために、税金を納めて日本の未来を創っていこうと思いました。

感想を読むと、子どもたちは税金や選挙が欠かせないものだということをしっかりと理解していることが分かります。例えば、「自分たちの生活に、ちゃんと税金が関わっていることがわかりました」の感想も、このコラボ講座により“ちゃんと”分かったのだと思います。また、「18歳になったら安心して選挙に行けそうです」と記した子どもは、18歳選挙権のことは知っていたけれど、今回の講座を受けたからこそ“安心”することができたのでしょう。「自分の1票が政治を動かすことにつながるのすごい」と考えたのは、模擬投票によって当選者が決まるドキドキ感を体験したからだだと思います。

「なすことによって学ぶ」は、アメリカの教育学者J・デューイの「Learning by Doing」を日本語に訳した言葉です。デューイは「人は経験から多くのことを学ぶ」と主張しました。以前お伝えしたように、学びが高まるとは、「知る」から「分かる・できる」になることです。今回のコラボ講座により、これまでバラバラだった子どもたちの知識がつながったり、認識が広がったり深まったりしています。この姿が「分かる・できる」です。これは、まさに「なすことによって学ぶ」の効果と言えます。

夏休みは「もの・こと・人」に実際に触れて、刺激を受けることができる絶好の機会です。熱中症やコロナへの心配は尽きませんが、Doingの機会をたくさん見付けてください。

ところで、6年生は先日、国会議事堂を見学してきました。この見学をきっかけにして、将来、政治家になろうとか、国づくりに貢献したいと思う子どもたちがいたら……、「なすことによって学び、夢を実現する」ということになるのですね。

健康には十分留意して、どうぞよい夏休みをお過ごしください。